

令和4年度 市木まちづくりセンターの主な取組

事業名

観光交流事業(ほたる鑑賞)

P

●事業実施に至った背景、目的

コロナ禍により、3年続けてふる里市木（地区まちづくり推進委員会）事業の「ほたる祭り」が中止に至り、「地域の財産である市木川に乱舞する「ほたる」を多くの人に見学してほしい！」との思いから、本年は浜田市内からの見学バスの運行を計画。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

- 鑑賞路 300M(河川管理道)と鑑賞スポットの除草作業
- 桃太郎旗、誘導灯の設置
- マスメディアを活用してのPR。(山陰中央新報 リビエール いわみケーブルビジョン 浜田市観光協会 広報浜田等)
- バス運行会社 いわみツアーとの打ち合わせ

D

●事業の概要

市木地区の一大イベントである「ほたる祭り」が本年も中止となり、昨年に引き続きほたる鑑賞を地区まちづくり推進委員会と協働で行った。上記背景、過程のとおりであるが、浜田市内からのお客を多く集客するための方策として「無料見学バス」を2便運行し、41名の利用があった。来場者には、地元特産品であるアスパラとバラをプレゼントした。また、ほたるの乱舞が見られる期間はセンターを一般開放した。(推計500名参加)

ほたる増殖研究会も5年目となり、着実に成果があがっており、センター開放と合わせて、増殖に関する展示を行った。

C

●事業実施後の振り返り

- ・マスメディアの効果はやはり大きいということが改めてわかった。今後も効果的に活用し、良好な人間関係の構築に努める。
- ・バス運行によるメリットが、旧浜田市内の人の移動に限られ、今後はその人たちがふる里市木に何らかの関わりができる仕組みづくりが必要である。

A

●令和5年度以降の方向性

- ・ほたるの飛翔、乱舞を見学できる場所を提供できることを「おもてなし」と心得て、無理をせず長続きできるように工夫する。

